２）復元製作実施設計

<table>
<tr><td colspan="2">［復元資料名］朱漆花鳥螺鈿卓（しゅうるしかちょうらでんしょく）</td></tr>
<tr><td>［原資料名］朱漆花鳥螺鈿卓</td><td>［指定]―</td></tr>
<tr><td>［年代］16 世紀</td><td>［作者]―</td></tr>
<tr><td>［所蔵］（一財）沖縄美ら島財団</td><td>［所蔵番号］326</td></tr>
<tr><td colspan="2">［選定理由］
琉球を代表する漆芸技法「朱螺鈿」で花鳥図をあらわした卓である。現在は行われていない煮貝または摺貝及び白下地の技法で加工した螺鈿を使用していると思われる。後補部分の再検討と、現在は失われた朱螺鈿の技術解明に挑戦することで、製作当初の古琉球期の漆芸技法を明らかにすることができると考えられるため復元対象とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［保存状態］
過去の修理痕が多数あり。後世に補われた螺鈿も複数ある。塗膜の割れが散見され、一部の塗膜・螺鈿には剥離・剥落が見られる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［法量］
総高：31.5 ㎝　　横幅：45.5 ㎝　　奥行：30.3 ㎝</td></tr>
<tr><td colspan="2">［素材・材質］
針葉樹系の木材、朱漆、夜光貝</td></tr>
<tr><td>［技法］
木地：指物
髹漆：下地不明、布着せあり、水銀朱
加飾：螺鈿（煮貝で加工した夜光貝）</td><td>［付属］
なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">［想定される科学調査］
・CT 撮影
・蛍光Ｘ線分析
・塗膜のクロスセクション（塗膜片があり、所蔵者の許可が得られる場合）</td></tr>
<tr><td colspan="2">［主たる材料調達先］
木地：杉材を想定。比較的入手しやすい材であるため、製作者が使い慣れている国内の材木店から調達する。
下地：県内で入手できる下地を想定。
漆：国産または中国産の漆を想定。製作者が使い慣れている漆業者から調達する。
顔料：水銀朱
螺鈿：沖縄県産の夜光貝（原貝）を想定。</td></tr>
</table>

［年度別工程表］

年度	製作作業内容
2024（令和 6）年	①　製作関連調査
	②　製作図面作成
	③　材料調達
2025（令和 7）年	①　木地本製作
	②　下地試作
	③　朱塗試作
	④　煮貝試作
2026（令和 8）年	①　下地本製作
	②　朱塗試作
	③　煮貝本製作
	④　螺鈿試作
2027（令和 9）年	①　朱塗本製作
	②　螺鈿本製作
2028（令和 10）年	①　朱漆本製作
	②　螺鈿本製作
	③　保存箱作成

［製作仕様］

図面：木地図面と文様図面を作成すること。

試作：漆色の試作、貝色の試作、文様の試作を行うこと。監修者または製作者の必要に応じて、道具の試作も行うこと。

木材：杉材を想定。接着は琉球の漆芸品に見られる膠または麦漆を用いる。必要に応じて木釘等も使用する。

下地：県内で入手できる下地を想定。目視観察、科学分析の情報を基に、監修者・製作者・事務局で協議して決める。

布着：原資料の布目を参考に、監修者・製作者・事務局で協議して布の種類を決める。

漆塗：国産または中国産の漆を想定。朱漆塗とするが、科学分析の情報を基に顔料を決定する。仕上げは塗立とする。

加飾：沖縄県産の夜光貝を想定。原貝から煮貝またはにより加工すること。貝下の白い成分については、目視観察、科学分析の情報を基に、監修者・製作者・事務局で協議して決める。最終的な仕上げは剥き貝とする。

輸送：複数の工房で作業をするため、製作途中の輸送用箱を作ること。

納品：本製作および試作、図面、余った材料の一部、調査時や製作時の写真等を納品すること。本製作については印籠蓋造の木箱を作成して納品すること。

その他：原資料に見られる後補等については、状態の良い部分や類例を参考に可能な限り本来の状態に戻して製作すること。また、製作工程がわかるように工程手板も製作すること。

［調査］

2023年10月13日　熟覧調査（R5第1回ワーキング）

［類例・参考］

・朱漆牡丹尾長鳥螺鈿卓

（県指定有形文化財・浦添市美術館・漆-21）『浦添市美術館所蔵品目録』（H12.3.30）

・朱漆寒山拾得螺鈿四方盆

（市指定有形文化財・浦添市美術館・漆-22）『浦添市美術館所蔵品目録』（H12.3.30）

［資料名］　朱漆花鳥螺鈿卓

<table>
<tr><td colspan="2">［復元資料名］ りょくしつほうおうずいうんちんきんまるびつ
緑漆鳳凰瑞雲沈金丸櫃</td></tr>
<tr><td>［原資料名］緑漆鳳凰瑞雲沈金内櫃</td><td>［指定］ 県指定有形文化財</td></tr>
<tr><td>［年代］1500 年頃</td><td>［作者］ー</td></tr>
<tr><td>［所蔵］個人蔵（久米島博物館寄託）</td><td>［所蔵番号］</td></tr>
<tr><td colspan="2">［選定理由］
琉球を代表する漆芸技法「緑漆沈金」で鳳凰と瑞雲をあらわした丸櫃である。オヤケアカハチの乱（1500 年）平定の功績により、尚真王から久米島のノロ・君南風に下賜された勾玉等を収めたという伝来がある。年代を

推定しうる最古の琉球漆器であるが、近世～現代の沈金技法とは異なる表現が見られることから、失われた古琉球期の沈金技法を明らかにできると考えられるため復元対象とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［保存状態］
木地、髹漆、加飾ともにほとんど劣化もなく状態もおおむね良好であるが、蓋と身に数カ所、塗膜の欠け・剝れがある。身の左右に金具をつけた痕が残る。復元製作に向けた情報収集も十分に可能である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［法量］
全高 16.3 ㎝　 最大径 20.1 ㎝
身高 12.9 ㎝（側面 11.8cm　立上り 1.0cm）　底径 19.9 ㎝、
深さ 12.1 ㎝　 内径 18.6 ㎝
蓋高さ 4.2 ㎝　内径 19.2 ㎝　 内高 3.1 ㎝</td></tr>
<tr><td colspan="2">［素材・材質］
針葉樹系の木材か、緑漆、金箔</td></tr>
<tr><td>［技法］
木地：曲物、指物
髹漆：下地不明、布着せ不明、緑塗
加飾：沈金</td><td>［付属］
黒漆菊花総取り沈金丸櫃</td></tr>
<tr><td colspan="2">［想定される科学調査］
・CT 撮影
・蛍光Ｘ線分析</td></tr>
<tr><td colspan="2">［主たる材料の調達先］
木地：杉材を想定。製作者が使い慣れている国内の材木店から調達する。
下地：県内で入手できる下地を想定。
漆：国産または中国産の漆を想定。製作者が使い慣れている漆業者から調達する。
金箔：製作者が使い慣れている漆業者から調達する。</td></tr>
</table>

［年度別工程表］

年度	製作作業内容
2024（令和 6）年	① 製作関連調査
	② 製作図面作成
	③ 材料調達
2025（令和 7）年	① 木地本製作
	② 下地試作
	③ 緑漆試作
	④ 沈金試作
2026（令和 8）年	① 下地本製作
	② 緑漆試作
	③ 沈金試作
2027（令和 9）年	① 緑漆本製作
	② 沈金本製作
2028（令和 10）年	① 緑漆本製作
	② 沈金本製作
	③ 保存箱作成

［製作仕様］

図面：木地図面と文様図面を作成すること。

試作：漆色の試作、沈金刀の試作、文様の試作を行うこと。

木材：杉材を想定。接着は琉球の漆芸品に見られる膠または麦漆を用いる。必要に応じて木釘等も使用する。

下地：県内で入手できる下地を想定。目視観察、科学分析の情報を基に、監修者・製作者・事務局で協議して決める。

布着：

漆塗：国産または中国産の漆を想定。緑漆塗とするが、科学分析の情報を基に顔料を決定する。仕上げは塗立とする。

加飾：沈金刀で彫った後、金箔押しを想定。金箔は国産を想定。金箔の号数については、目視観察、科学分析の情報を基に、監修者・製作者・事務局で協議して決める。

輸送：複数の工房で作業をするため、製作途中の輸送用箱を作ること。

納品：本製作および試作、図面、余った材料の一部、調査時や製作時の写真等を納品すること。本製作については印籠蓋造の木箱を作成して納品すること。

その他：原資料に見られる欠損部等については、状態の良い部分や類例を参考に可能な限り本来の状態に戻して製作すること。また、製作工程がわかるように工程手板も製作すること。

［備考］

原資料は、「黒漆菊花双鳥沈金丸櫃」と合わせて１件２点の資料であるが、予算の都合により本作を優先的に製作する。

［調査］

2023 年 12 月 22 日　熟覧調査（R5　第 2 回監修者会議）

［類例・参考］

・緑漆鳳凰雲点斜格子沈金丸櫃
（市指定有形文化財・浦添市美術館・漆-1）『浦添市美術館所蔵品目録』（H12.3.30）

・黒漆日輪鳳凰雲点斜格子沈金丸櫃
（(一財)沖縄美ら島財団）『尚王家と琉球の美展』42

・黒漆日輪鳳凰雲点斜格子沈金丸櫃
（(一財)沖縄美ら島財団）『尚王家と琉球の美展』43

［資料名］緑漆鳳凰瑞雲沈金丸櫃

緑塗鳳凰雲沈金丸内櫃

蓋(緑塗鳳凰雲沈金丸内櫃)

緑塗鳳凰雲沈金丸内櫃

画像「みんなの文化財図鑑　有形文化財編ＨＰ」

(https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/bunka/bunkazaizukan/minbunpdf/documents/2019-03-06-01.pdf)

しろみつだ か ちゅうはく え まるぼん
［復元資料名］白密陀花虫箔絵丸盆

［原資料名］白密陀花虫箔絵丸盆	［指定］―
［年代］16～17 世紀頃	［作者］―
［所蔵］（一財）沖縄美ら島財団	［所蔵番号］349

［選定理由］

琉球を代表する漆芸技法「白密陀」の地に箔絵で花や虫をあらわした丸盆である。白密陀の技術は現代では途絶えており、修理方法も確立されていない。復元を通して失われた白密陀の技法を明らかにできると同時に、今後の修理に有益な情報を蓄積できると考えられるため復元対象とする。

［保存状態］

火災により貼りついた薄葉紙の跡が全体的に残る。見込みを中心に、塗膜の大きな亀裂がある。過去の修理痕も多数散見される。

［法量］

総高：3.0㎝　直径：約 31.0㎝

［素材・材質］

針葉樹系の材、密陀僧（一酸化鉛）

［技法］	［付属］
木地：指物、巻胎 髹漆：白密陀 加飾：箔絵	

［想定される科学調査］

・蛍光Ｘ線分析
・CT スキャン
・塗膜のクロスセクション（塗膜片があり、所蔵者の許可が得られる場合）

［主たる材料調達先］

木　地：杉材を想定。比較的入手しやすい材であるため、製作者が使い慣れている国内の材木店から調達する。
下　地：県内で入手できる下地を想定。
白密陀：鉛白などの白色顔料によるものと考えられる。製作者が使い慣れている業者から調達する。
金　箔：製作者が使い慣れている業者から調達する。

［年度別工程表］

年度	製作作業内容
2024（令和 6）年	① 製作関連調査
	② 製作図面作成
	③ 材料調達
	④ 白密陀手板試作
2025（令和 7）年	① 木地本製作
	② 下地試作
	③ 白密陀試作
2026（令和 8）年	① 下地本製作
	② 白密陀本製作
	③ 箔絵試作
2027（令和 9）年	① 箔絵本製作
	② 保存箱作成

［製作仕様］

図面：木地図面と文様図面を作成すること。

試作：白密陀の試作を行うこと。

木材：杉材を想定。接着は琉球の漆芸品に見られる膠または麦漆を用いる。

下地：県内で入手できる下地を想定。目視観察、科学分析の情報を基に、監修者・製作者・事務局で協議して決める。

布着：CT スキャンの結果を確認し、監修者・製作者・事務局で協議して決める。

白密陀：乾性油（荏油を想定）と密陀僧（市販の一酸化鉛を想定）に白系の色材を混ぜて製作することを想定。目視観察、科学分析の情報を基に、監修者・製作者・事務局で協議して決める。

加飾：金箔は国産を想定。金箔の号数については、目視観察、科学分析の情報を基に、監修者・製作者・事務局で協議して決める。

輸送：複数の工房での作業が想定されるため、製作途中の輸送用箱を作ること。

納品：原資料は４枚だが、他の事例から本来は５枚あったと想定されるため、同一資料を５枚製作し１件５点を納品すること。また、試作や図面、余った材料の一部、調査時や製作時の写真等を納品すること。本製作については木箱を作成して納品すること。

その他：原資料に見られる後補等については、状態の良い部分や類例を参考に可能な限り本来の状態に戻して製作すること。また、製作工程がわかるように工程手板も製作すること。

［調査］
2023 年 10 月 20 日　熟覧調査（R5　第 1 回ワーキング）

［類例・参考］
・白密陀椿鳥箔絵盆（浦添市美術館・漆-321）『浦添市美術館所蔵品目録』（H12.3.30）
・白密陀牡丹箔絵盆（浦添市美術館・漆-483）『浦添市美術館所蔵品目録』（H12.3.30）

［資料名］白密陀花虫箔絵丸盆